

人類学者と語る「他者理解」

グローバル社会の人間関係はどうあるべきか？
人類学者5人の視点と高校生の疑問を交差させ、共に考える特別企画

2026年 2月1日(日) 13:30～16:30

Zoom オンライン開催
参加無料・要事前登録・定員

どなたでもご参加いただけます
参加登録はこちら(1/25まで) →



プログラム

13:00 開場

13:30 開会挨拶

13:40 第一部 人類学者からの話題提供

基調講演 ヒトは他者との付き合いをどのように進化させてきたか
山極 壽一（総合地球環境学研究所・所長）

話題① 人類史が教えてくれる他者理解のための鍵
海部 陽介（東京大学・教授）

話題② 「私たち」の範囲はどう変わってきたか —考古学から探る—
松本 直子（岡山大学・教授）

話題③ ナニジンって、何で決めるの？ —横浜中華街から考える—
陳 天璽（早稲田大学・教授）

話題④ 「日本人」「外国人」というカテゴリー
竹沢 泰子（関西外国語大学・教授）

15:00 休憩

15:15 第二部 質疑応答・全体討論
人類学者 X 高校生 司会：高校生2名

16:30 閉会

主催：日本学術会議 多文化共生分科会・自然人類学分科会

後援：東京都教育委員会 日本文化人類学会 日本人類学会

共催：科学研究費挑戦的研究「人間の「ちがい」と差別に関する人類学的研究」（24K21178）

問合せ：tasharikai2026@gmail.com

近年、国際化が急速に進んでいく反面、外国人に対する排外主義の動きも目立ってきています。そもそも人は、日常生活の中の様々なレベルで、他者や他集団と交流し、そこから学び、時に摩擦や不安を感じ、葛藤しながら生きています。人間の宿命にもみえるこの重要かつやっかいな課題と、私たちはどのように向き合うべきなのでしょう？

問題の本質を理解するには、人間（ヒト）の社会の特殊性、人間集団間の交流と争いの歴史、差別と区別の現状などを探究する、霊長類学、自然人類学、考古学、文化人類学を含む人類学諸分野の視点が有効なはずです。本シンポジウムでは、専門の異なる5人の人類学者が高校生たちと語り合いながら、共同で、他者や他集団の理解と対人関係のあるべき姿を探ります。

講師紹介

山極 壽一（やまぎわ じゅいち）：霊長類学

総合地球環境学研究所所長。京都大学理学部で霊長類学を学び、京都大学総長、日本学術会議会長を歴任。アフリカでゴリラの社会生態の調査をもとに、人類の社会進化の歴史を考察している。著書に『共感革命』、『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』など。



海部 陽介（かいふ ようすけ）：人類進化学

東京大学総合研究博物館教授。東京大学で生物人類学を学び、国立科学博物館を経て、2020年より現職。約200万年におよぶアジアの人類史を研究。「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」（国立科学博物館）代表。著書に『人間らしさとは何か』、『サピエンス日本上陸』など。



松本 直子（まつもと なおこ）：考古学

岡山大学文明動態学研究所教授。縄文から弥生への変化についての認知考古学的研究で学位を取得（九州大学）。ジェンダー考古学にも関心がある。学術変革領域研究「マテリアマインド」代表。著書に『認知考古学とは何か』、『縄文のムラと社会』など。



陳 天璽（ちん てんじ）：文化人類学

早稲田大学国際教養学部教授。NPO法人無国籍ネットワーク発起人。横浜中華街生まれ。筑波大学国際政治経済学博士。ハーバード大学研究員、日本学術振興会（東京大学）研究員、国立民族学博物館准教授を経て現職。著書に『華人ディアスポラ』、『無国籍と複数国籍』、『Stateless』など。



竹沢 泰子（たけざわ やすこ）：文化人類学

関西外国語大学国際文化研究所所長。京都大学名誉教授。研究テーマは、人種・民族・移民など。近年は、本務校以外でもアメリカ・フランス・ドイツ等において客員教授として授業・講演を行い、国際発信を続けている。著書に『日系アメリカ人のエスニシティ』、『アメリカの人種主義』など。

